

船の事故	発生日	発生日	船舶種類	事故形態
	5月9日(月)	福岡県	タンカー	衝突
	5月9日(月)	福岡県	タンカー	衝突
	5月11日(水)	長崎県	漁船	運航不能
	5月13日(金)	福岡県	プレジャーボート	火災
	5月14日(土)	佐賀県	プレジャーボート	運航不能
	5月15日(日)	福岡県	漁船	浸水
人の事故	発生日	発生日	事故区分	事故内容
	5月11日(水)	長崎県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	海中転落
	5月12日(木)	山口県	マリレ以外の海浜事故	海中転落

# 船舶火災発生！！

【問合せ先】  
 第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 古場  
 安全対策調整官 川部  
 TEL：093-321-2931（内線2640）

## 【事事故例】

令和4年5月13日19:05頃、プレジャーボートが鳥取県から福岡県向け回航中、冷却水の温度が高いことから停船させたところ、右舷外取排気口から黒煙が上がっていたので、機関室内を確認したところ、火災が発生していることを認めた。

火災の状況から機関室に近づかない方が良いと判断し、ライフジャケットを着用、直ちに118番通報を行った。その後、船首甲板に避難していたが、船体全体に延焼が始まったことから浮き代わりに防舷物を持って海に飛び込み、30分程海に浮いていたところ、付近航行船舶に救助された。

※火災原因については調査中



火災船の状況

## 主な船舶火災の原因

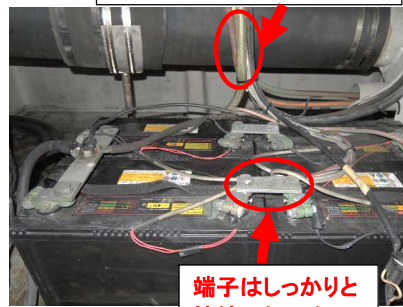
### 1. 電気系統(火災原因ワースト1)

- ・電線の劣化等によりショート(短絡)や漏電が起き、周辺の可燃物に引火。
- ・バッテリーや配電盤の端子の緩みにより発熱、バッテリーの水素ガス等に引火。
- ・コンセントやプラグとの隙間に溜まった埃等が原因で発火。

複数本束ねた電線は内部に熱を持ち劣化しやすいです。

### 2. 排気管系統

- ・燃料や潤滑油が高温の機関室内で漏れると排気管の熱や少しの火花で引火。
- ・油分が染みたウエス等が高温の排気管に付着し発火。



端子はしっかりと接続しましょう

### 3. 暖房器具・調理器具等

- ・ストーブやガスコンロ等を使用する際、周囲に可燃物があると発火。

## 火災が起きてしまったら 🔥

- ①火元を風下にしましょう。
- ②機関室火災の場合は、エンジンを停止し、機関室通風機も停止しましょう。  
(空気(酸素)の供給を止め延焼を遅延させ、また、消火器の有効性を高めます。)
- ③機関室内が無人であることを確認し機関室給気口を濡らしたタオル等で塞ぐことも有効です。
- ④可能であれば燃料コックを閉めて燃料の供給を遮断しましょう。
- ⑤消火活動と同時に救助要請(118番等)を行いましょ。
- ⑥消火不可能な場合は、救命胴衣を必ず着用して風上側に退船しましょう。

火災防止のため、設備・機器等の日常的な点検整備や専門業者による定期的な整備のほか、正しい機器の取扱い等に注意しましょう。また、万一のために備え、消防設備(消火器等)の使用手法や設置場所を確認しておきましょう。

詳しくは、日本小型船舶検査機構「小型船舶の火災爆発事故防止のために」をご確認ください。

[https://jci.go.jp/jikomannual/pdf/kasai\\_bakuhatsum.pdf](https://jci.go.jp/jikomannual/pdf/kasai_bakuhatsum.pdf)

